

## オンライン旅行に期待

コロナ禍で旅行を十分に楽しむことが難しい今、オンライン旅行が注目されている。参加者はビデオ会議システム「Zoom（ズーム）」などのオンラインツールを使用し、自宅にいながら数時間のバーチャル旅行を体験する。リアルでは参加に躊躇（ちゅうちょ）する世界一周旅行もオンラインなら気軽に楽しめる。

オンライン旅行は、安価で支度や移動が不要なこと、旅行期間（時間）が短いことなどから、幅広い年代の人、また体が不自由な人や時間に余裕がない人なども参加しやすく、利用者の広がり期待できる。コロナ収束までの代替策と捉えられがちだったが、参加者層の広がりから「アフターコロナ」も旅行スタイルの一つとして継続する可能性がある。

旅行事業者は臨場感を高めるためさまざまな工夫を講じている。例えば、オンラインバスツアーの先駆けである香川県のバス会社が提供するツアーは、旅のしおりや紙製シートベルト、旅先の地場産品が事前に届き、当日の道中は届いた弁当やおつまみを味わいながら参加者同士で楽しく交流できる。また、富士山の登山道にある山小屋が提供するオンライン登山は、雄大な景色を眺めつつガイドによる解説を聞き、夕方開始の夜間登山では山頂からご来光を拝むことができる。

最近では独自性の高い取り組みもみられる。大手印刷会社はVR（仮想現実）技術で文化財の高精細なデジタル保存・資料保存に取り組んできたノウハウをいかし、VRによる唐招提寺の拝観や絵巻の紹介、僧侶との対話、また浮世絵工房の実演や当主と交流できるプランを提供している。安価とはいえないが、普段目にすることや体験できない伝統文化を体感できるのが魅力だ。異業種参入も含めたオンラインならではの体験機会は今後も広がるだろう。

三重県においても、バリアフリー観光県としてオンライン旅行のコンテンツ作成に取り組んでいる。「ウイズコロナ」「アフターコロナ」の旅行スタイルというだけでなく、地場産品の消費拡大による事業者への応援や、VR等の活用による新たな魅力発信にもつながる。今後の可能性に期待したい。

（コンサルティング事業部 調査グループ 主任研究員 山崎 美幸）